

6 「授業評価」に「ID/ICE」を落とし込む

「授業評価」の項目を「ID/ICE」を盛り込む工夫をすることとしました。この「授業評価」を行うことが、学び方を支援する取組となるのか検証することにつながります。

作成については、授業開発部で項目提案を行い、教務部・SSH部での検討後、全職員に配付・検討の段取りで実施しました。これまでの授業評価を改訂したものの名称は【「生徒主体の学びのデザイン」がなされているかを問う授業振り返りシート】とし、下記に示す通り、ICEおよびID（各理論）を配置し、左欄は生徒が教師の授業を評価する項目、右欄は生徒が自分の授業の受け方を評価する項目とし、学び方をメタ認知する機会としました。難しい内容ではありますが、生徒たちは「学習設計マニュアル」を手元に置いていますので、折に触れ言葉や内容を主体的に学ぶこともできたようです。検討後は、配信・データ処理は教務部が行いました。生徒の実施は、学年により3年生は無料アンケートツール、1・2年生はeラーニング環境を使用しました。時期は、1回目7月、2回目12月の2回実施しました。

職員一人一人へ返却された結果を基に、2学期以降授業振り返りデータを各自分析し、工夫を加えた実践を行っています。

【「生徒主体の授業デザインになっているかを問う授業振り返り」】

3年()組()号 氏名()		振返り科目名 ①() ②() ③()			下記の各項目にMAX4で表記してください。			
「生徒主体の学びのデザイン」がなされているかを問う授業振り返りシート								
		【授業自体のデザインがどうかを考える】			【その授業での自分の態度を俯瞰する】			関連するID理論
		①	②	③	①	②	③	
目標→全体	I	授業の目標が何か理解できる場面があるか			授業の目標が何か理解できているか			ガニエの9教授事象 導入 事象2: 授業の目標を知らせる
授業・教材	I	知識・技能を体得する機会はあるか (反復練習が十分できるか)			知識・技能を体得しようとしたか			ガニエの9教授事象 学習活動 事象6: 練習の機会をつくる
	C	思考を促される問いはあるか ・単元を貫く問いが意識できたか			思考を促される問い自体に答えようとしたか			ケラーのARCSモデル 魅力あるものにするためのアイデアを整理する特組み おもしろそう・やりがいがありそう・やればできそう・やってよかった
		思考を促される工夫があるか			思考を促され、自分が思考を深めようとしたか			
	E	生徒同士で思考を促し合う機会があるか ・ペアやグループでの話し合い ・記述したもの の 回覧 ・他者への気付き・感想 ・他者への質問			生徒同士で思考を促し合おうと行動したか			学習環境設計の4原則(米国学術研究推進会議) 学習者中心・知識中心・評価中心・共同体中心
		思考・成果をアウトプットする機会があるか ・口頭発表(ペア、グループ、全体) ・身体表現 ・紙面発表(文字、図) ・音声記録			思考・成果をアウトプットしようとしたか			
次につなげる振り返りができているか ・その状況で何が本質的であるかをわかるようになること ・経験から学ぶことができること			次につなげる振り返りができたか			メリルのID第一原理 5統合: 学びの成果を振り返り省察するチャンス設ける コルブの経験学習モデル		
評価	C	知識獲得の確認だけでなく、知識にまつわるプロフィールをひろげていく機会があるか ・創造的読書 ・考査の内容 ・考査解答の複数提示 ・レポートの内容 などによって自らひろげようとする機会			知識同士をつなげようとしたか ・関連することをさらに広げようとしたか ・教科内での様々な領域 ・複数教科の関連性			ガニエの9教授事象 まとめ 事象9: 保持と転移を高める
	E	多面的に評価されているか ・客観テスト/ルーブリック評価/ 他者からの評価/自己評価など			自分の力を多面的に伸ばそうと行動したか			ガニエの学習成果の5分類 認知的領域(言語情報・知的技能・認知的方略) 運動領域(運動技能) 情意領域(態度)
全体を振り返って3問に答えてください。		Q1 自分の取組について、全体として☆をいくつ自分にあげられると思いますか？		Q2 その理由は何か？		Q3 今後改善しようと思う点は何か？		記入が終わったら、eラーニングへ投稿してください。
		①						
		②						
		③						